



甲斐市立玉幡小学校 学校だより 第6号

千一ム玉幡

平成30年 6月26日(火)

校長 望月和彦

「道徳科」「外国語科」の授業づくりに取り組む！

学校にとって授業は最も大切な時間です。その授業が、子どもたちにとって楽しく、わかりやすく、生きるために必要な力を育てられる時間であるように、本校の教員は日々努力しています。特に今年度は、今までの「道徳の時間」が「特別の教科 道徳（道徳科）」と呼ばれるようになり、教科の1つとして捉えられるようになりました。教材の中で扱われている道徳価値を自分との関わりの中で考えられるようにすること。授業の中で多様な考え方や感じ方に合わせ、交流させることによって自分の考えをより深められるようにすることなどが求められています。教科書を使うようになったり、「学校生活のようす」（3学期のみ）などで評価を行ったりするようになったことも大きな変化です。この変化に合わせて、今年度は校内研究のテーマを「より効果的な“特別の教科 道徳”の指導法の工夫」とし、教職員全員で研究に取り組んでいます。6月6日には中北教育事務所のお二人の指導主事を招いて、道徳科の授業づくりのポイントと評価の方法について学習会を行いました。さらに6月15日には山梨大学大学院准教授の東海林麗香先生に、4年生を対象にした師範授業を行っていただきました。東海林先生と4年生は初対面であり、多くの先生が見ている中での授業だったので、子どもたちは緊張気味でしたが、担任の上杉先生、研究主任の笠井先生のサポートの中で、真剣に授業に取り組んでいる様子が見られました。その後の研究会の中で、今後の授業づくりに何が大切かを学ぶことができました。



また、今年度のもう一つの変化として、昨年度まで行っていた高学年の「外国語活動」に、教科としての「外国語科」の内容を取り入れることになりました。授業時間も、週1時間に加えて、年間45回、15分間の短時間授業（モジュール授業）を朝の会の前に行うようにしています。合計で年間50時間になります。（平成32年度からはさらに20時間増え、年間70時間になります。）英語で「話す」「聞く」中心の内容に加えて、英語で「読む」「書く」の基礎的内容も含まれることになりました。45分の授業は、学級担任がALT（ジョン先生）と協力して授業を進めますが、15分間のモジュール授業はデジタル教材を使いながら学級担任が授業を進めています。クイズ形式で身近な会話を英語で楽しんだり、英語で歌を歌ったり、時々授業を覗いてみると、多くの子どもたちが楽しみながら積極的に授業に参加しているようです。中学校での本格的な英語の授業に向けて、基礎的な力と英語学習に対する意欲を育てられるような授業づくりに取り組んでいきたいと思えます。



また、今年度のもう一つの変化として、昨年度まで行っていた高学年の「外国語活動」に、教科としての「外国語科」の内容を取り入れることになりました。授業時間も、週1時間に加えて、年間45回、15分間の短時間授業（モジュール授業）を朝の会の前に行うようにしています。合計で年間50時間になります。（平成32年度からはさらに20時間増え、年間70時間になります。）英語で「話す」「聞く」中心の内容に加えて、英語で「読む」「書く」の基礎的内容も含まれることになりました。45分の授業は、学級担任がALT（ジョン先生）と協力して授業を進めますが、15分間のモジュール授業はデジタル教材を使いながら学級担任が授業を進めています。クイズ形式で身近な会話を英語で楽しんだり、英語で歌を歌ったり、時々授業を覗いてみると、多くの子どもたちが楽しみながら積極的に授業に参加しているようです。中学校での本格的な英語の授業に向けて、基礎的な力と英語学習に対する意欲を育てられるような授業づくりに取り組んでいきたいと思えます。

3小学校の6年生が親睦を深めました

6月13日（水）に玉幡体育館において竜王班南ブロックの「親睦球技大会」が開かれました。この行事は玉幡小、竜王南小、竜王西小の6年生全員が学校ごとに4チームをつくりソフトボレーボールを楽しむものです。開会式では、3校いずれの6年生も、とてもしっかりとした態度で式に臨んでいて、競技が始まるとルールやマナーを守って精一杯プレーしたり、仲間を一生懸命応援したりする姿が見られました。すべてのチームが4試合を行い、全部勝ったチームもあればなかなか勝てなかったチームもあったようです。全体として、選手





として、応援者として、審判・進行係・感想発表などの係として、やるべきをことしっかりやって、自分のことばかりでなく、チームの中間のこと、参加している他の学校のことを考えながら、競技を楽しめたことが何よりでした。閉会式の前には、各自が用意した10枚の名刺を他校の6年生に渡しながらいさつをしました。ちょっと照れくさそうな笑顔があちらこちらで見られました。来年4月には共に中学1年生になる仲間との交流として、大変有意義な行事になりました。体育館のギャラリーには大勢の保護者の方々が観戦しに来てくれました。大きな声援もありがとうございました。

夏の楽しみ プールの授業

6月1日に児童会長・副会長の3人と教員代表で安全を祈願しながらプール開きを行い、子どもたちが楽しみにしていたプールの授業が始まりました。暑い日のプールの授業は、子どもたちにとって最高の時間のようなのです。曇りの日には、何人かの子が「先生、今日プールで泳げますか？」と心配そうに聞きに来ます。プールの授業では、子どもたちのたくさんの笑顔が見られ、大きな歓声が響きます。安全なプールの利用法を知ること→水を怖がらず水遊びができるようになること→水に潜れるようになること→泳げるようになること→いろいろな泳ぎ方ができること→息継ぎがスムーズにできるようになること→長い距離を速く泳げるようになること。プールでも子どもたちはたくさんのことを学び、力をつけます。9月初旬までの短い期間ですが、子どもたちには安全を第一に考えてプールの授業を楽しんでもらいたいと思います。



プールを運営するにあたっては、多くの方々の力が必要です。今年も6月1日に、6年生が教員と一緒にプールの底や壁をピカピカに磨いたり、プールサイドや更衣室などを掃除したりしてくれました。そして、プールの授業には危険もあるので、教員を常に3人以上を配置していますが、さらに安全を確保するため保護者の方々にも監視ボランティアをお願いしています。すでにたくさんの方々がこの活動に協力してくれています。本当にありがたいことです。夏休みのプール開放日には、PTA保健体育部の方々と6年生の保護者がプール監視に来てくれる予定になっています。6月8日には保健体育部の方々が、甲府地区消防本部の方々を講師に6年生保護者と教職員を対象にした救急救命法講習会を開催してくれました。また、本校のプールは水の循環が悪く、藻がすぐに発生しやすい状況です。市にも改修をお願いしているところですが、内藤体育主任を始めとする若手の教員が放課後や休日、プールに入り藻を除去する作業をしています。



登下校中の災害に備えて

大阪府北部で起きた地震により、通学途中の女子児童が倒壊したブロック塀の下敷きになり命を失うという痛ましい出来事が起きました。これまでも、学校内の施設設備、登下校の通学路の安全点検は行ってきたところですが、県や市教育委員会の指示を受けながら、次の2点についての緊急点検を行いました。①学校の敷地内の施設、設備に倒壊する可能性のあるブロック塀や建造物はないか ②児童の通学路に倒壊する可能性のあるブロック塀や建造物はないか ①については校長・教頭で敷地内・校舎内を巡視したところ心配になる箇所はありませんでした。②については6月22日に4・5・6年生の下校に合わせて、全教職員が地区担当ごとに児童と一緒に通学路を点検し、危険がありそうなブロック塀や建造物をチェックしたところです。この安全点検で、住宅街の通学路にはブロック塀が非常に多く、ひびが入っていたり、傾いていたりするもの、かなり高い塀もあることがわかりました。またグリーンベルトの直上に瓦屋根がかかっていたり、道路に面している建物の壁にひびが入っていたりする住宅などもありました。教員が目で見ただけの感覚なので、対策を講じるには専門家による調査が必要だと思われます。

そこで、学校として今できる対策は、登下校途中で大地震が起きたときに注意することを子どもたちに指導することです。学級担任からは、次のことを指導しました。

地震が起きたら、周囲の状況を十分確認し、落ちてくるものがない・倒れてくるものがない・移動してくるものがない場所に身を寄せ、持ち物や手で頭を守る。

※危険なもの…ブロック塀、屋根瓦、自動販売機、ガラス、外壁、電線等

